

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4090100258		
法人名	医療法人小林医院		
事業所名	グループホームリラ		
所在地	福岡県北九州市門司区小森江3丁目3-26		
自己評価作成日	令和5年1月10日	評価結果確定日	令和5年3月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス		
所在地	福岡市南区井尻4-2-1	TEL:092-589-5680	HP:https://www.r2s.co.jp
訪問調査日	令和5年2月3日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】(Altキー+enterで改行出来ます)

その人がその人らしい生活を送ることができるよう、生活歴からの生活習慣や本人の現状を尊重し、できる限り本人本位の生活を支援していくことを心がけています。利用者様のご家族だけでなく、地域密着型施設として、近隣住民が気軽に来園しやすい場所や地域づくりを目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

医療法人を母体とする2ユニット事業所「グループホームリラ」は小森江駅から徒歩10分程度の住宅街に位置する。開設から10年を超えるが近隣住民との関係も良好で、併設の小規模多機能事業所を利用される方もいる。季節ごとのレクリエーションに特に力を入れており調査時も節分のイベントを開催していた。コロナ禍でも感染防止に配慮しながら面会も受け入れており、外出行事についてもコロナ前に比べると少なくなりましたが駅までの散歩や外出レクなども続けていた。併設の小規模とも合同レクをしたり、サービスの連携もされている。一人一人の生活を大事にし、朝ゆっくり寝たり、お酒をたしなんだりこれまでの生活習慣を大事にし個人に向き合ったケアを提供している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
68	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・各ユニットにて普段目につきやすい場所に理念を掲示し、共有できやすいようにしている。・入居者様が、住み慣れた環境で、安心して過ごせるよう支援している。	開設当初から、グループホーム独自の理念がある。ユニット内やEVホールなどにも掲示するほか、各所にあげて目に付くようにしている。入社時のオリエンテーションなどで共有し、「自分らしく～」という一文にあるように入居者それぞれに向き合ったケアの提供を意識している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	町内会、自治会など地域コミュニティに協力し、運営推進会議等で、地域の依頼があれば、積極的に支援しているが、今年もコロナ禍であったため、規模は縮小していたが、地域にある神社のお祭りの準備に職員が参加している。	近くの花屋に花を買いに行ったり、コンビニに買い物のに行ったりと顔なじみの関係になっている。併設小規模灌野では近隣住民の利用もある。地域清掃などにも機会があれば職員が参加している。以前は地域の方を行事に招いたり、イベントでのボランティア活動なども行っていた。	コロナ禍では難しかったが、落ち着いてからは地域行事の参加や、地域の方を招いた行事開催などの再開をしたいと考えている。実施に期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・小学校校区の老人会に職員が所属し、情報発信を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者様の毎月の活動内容、事故報告などを行い、各職員に回覧にて報告をしている。	併設の小規模多機能事業所と合同開催しており、コロナ禍でも例年通り2か月ごとに定期開催していた。地域包括、自治会長のほか家族は全員に案内し都合の合う方に参加してもらっている。議事録は事務室で閲覧できるようにしている。会議では行事報告のほかヒヤリハット報告などを行い、質問なども出ている。	議事録は閲覧共有しているが、開催案内と合わせて前回議事録を郵送報告することで、全員に対して情報発信、共有されるのも良いのではないだろうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	・北九州市の介護保険課の担当職員や、地域包括支援センターの担当職員と、日頃より連絡や相談をしている。今年度もコロナ感染予防等、感染防止を中心に協力関係を築いた。	介護保険に関する質問や問い合わせなどがあつた時に連絡している。併設の小規模多機能を通して、地域包括センターから相談を受けることもあり、事業所全体として相互に協力関係を作りつつある。介護申請の際なども窓口を訪問し、極力対面して話す機会を作るよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・入居者様に尊厳のある生活を送ってもらえるよう、各職員に周知、徹底している。3か月に1回身体拘束等に関する委員会を開催し、介護職員、管理者、計画作成担当者それぞれの立場から、適切なケアを実践できるように協議している。	職員管理のもと安全防犯上、玄関施錠をしており外出の要望があるときは職員の見守り付き添いにて対応する。数年前にベッド柵の利用があつたが事前説明の上解消に向けた取り組みを継続する。身体拘束廃止委員会を組織しており、外部研修への参加、内部での伝達を行っている。	

R5.1自己・外部評価票(グループホームリラ)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・管理者による職員への指導の実施 ・施設内へのカメラ設置、録画		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・必要に応じて、成年後見制度の案内を実施している。	グループホーム内には制度利用者はいないが、併設事業所で利用される方がいる。利用相談がある際には外部の協力機関と連携して対応することもある。毎年権利擁護に関する研修を内部で実施している。	資料、パンフレットの準備がなかったので、複数部準備されても良いのではないだろうか。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・新規契約時や契約更新時に内容説明を行い、疑問点や不安点を解消するように努めている。また必要に応じて、書面等を使いながら、説明している。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・コロナ禍であったが、ご家族面会時に必要に応じて、要望の聞き取りを行っている。 ・意見箱の設置している。	8割以上の家族が、月1回以上は面会に来てもらっておりその際に意見を聞くことが多い。コロナ過でも感染防止の上面会は継続してもらった。遠方の家族に対しては電話で報告する。意見や要望なども直接頂いており、回答もしている。	家族に対して、事業所の取組を知ってもらうために、運営推進会議の議事録の報告や、行事報告などを定期的に行えるような取り組みを検討されてはどうだろうか。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・全職員を対象とした、管理者による定期的な個人面談を実施。 ・その都度必要に応じた面談、会議の実施。	不定期ではあるが、施設全体での会議を開催する。利用者へのケアのやり方やリスクについての話しを主に行う。勤務についての相談なども、日ごろから管理者や上長も現場に来ているため気軽にすることが出来る。	会議やミーティングについては定期的に曜日や時間帯を定めて継続的に行った方が、継続的な情報共有の取り組みにつながるのではないだろうか。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・職員の特性に応じたチーム編成、担当業務の振り分けを行っている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	・職員募集の際、性別、年齢、生活状況による採用、不採用をしていない。また、釣りや折り紙、お茶づくりなど、職員のこれまでの経験や得意分野を生かし、レク活動などに反映している。	男女比は4:6程度で、年齢層は30～60歳代だが概ね40代が多い。調理やレクなど、それぞれの得意分野をサービスに活かしている。休憩時間はとられており、休憩場所は各フロアの空きスペースを利用している。	スキルアップの取組として、研修受講や資格取得に向けた支援についても検討されるのもよいのではないだろうか。

R5.1自己・外部評価票(グループホームリラ)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	・日常の言葉遣い、接遇等、日々の業務の中で、職員同士にて確認し、必要に応じて教育を行っている。	外部研修でも機会があれば、参加するが最近ではなかった。昨年は認知症管理者に参加した職員があり、人権関連の講義も受講している。	人権関連の学習や、ハラスメント等の研修など、継続的な学習機会が持たれるようにされることを期待したい。動画視聴や資料共有なども積極的に利用されてはどうか。
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実践と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・外部研修に行った際は、資料をファイリングし、管理者や各職員にフィードバックをしている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・外部研修に参加した際、同業者と情報交換等、交流をしている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・入居前のアセスメント、もしくは入居後、本人、担当ケアマネやソーシャルワーカー、本人家族と面話し、相談や要望をお聞きし、信頼関係を築くようにしている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・入居相談時にお互いの疑問点、不安点を解消すべく連絡を密にとり信頼関係を構築している。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・入居相談時にグループホームだけでなく、併設している小規模多機能型居宅介護施設や外部サービスの提案を含めご家族、本人様の希望に沿った利用法をご案内している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・日常生活の中で、利用者様のできることは積極的にかかわりを持ってもらい、共同生活の構築を図っている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・帰宅を希望される家族もあり、コロナ感染防止対策を徹底した上で、定期的な外泊、外出の機会を確保している。・家族に随時適切に利用者様の状況を伝え、情報の共有に努めている。		

R5.1自己・外部評価票(グループホームリラ)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・入居前からのかかりつけ病院へ定期受診したり、入居者に関係のある場所に外出したりしている。	利用者が以前から利用する老人会に参加する支援を行っていた。手紙のやり取りや、電話の手伝いをすることもある。コロナ過でも感染防止の手続きを踏んだ上で、一時帰宅の要望があれば許可している。馴染みの美容室などの外出も家族支援の下行っている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・利用者様の配席の考慮、長所、特性や生活歴を考慮した役割分担を行っている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・退所時の相談やお見舞い等を含め、希望時や必要時に、連絡、連携、援助を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・利用者様の配席の考慮、意向、特性、生活歴に応じた役割分担を行っている。実現可能な要望や入居前の生活リズムを尊重しながら、過ごしやすい生活を送れるよう、支援している。	入所時にアセスメントを、主に現場の担当と計画作成担当者が行う。主に介護更新時に見直す。生活歴は本人や家族等から聞き取って情報を収集する。意向の把握が難しい方は以前の反応から推測したり、日常生活の中から表情の変化などを読み取ってケアする。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・本人様やご家族様とのお話の際、情報収集をこまめに行い、新たに知りえた情報を介護記録、フェイスシート等に全職員と共有し、適切な支援に生かしている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・モニタリングやアセスメントによる状態把握を行い、現場には日々の申し送りや介護記録、等による記録により、現状把握に努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・担当者会議や面会時において、入居者やご家族の意見や要望をお聞きするようになっている。また本人との会話、状態観察、介護記録、現場スタッフへ現状確認を行い、対処方法を考えながら、介護計画書を作成している。	プラン作成は計画作成担当者が主になって、現場の担当からも意見を聞き取りながら行う。プラン見直しは半年の定期と変化があった際に随時行い、担当者会議を実施する。担当者会議にはご家族にも参加してもらう。プランは個別にファイル管理して希望した際に見ることが出来る。	スタッフ全員が同じようにプラン目標とサービス内容を意識したケアが出来ることが望まれる。毎日の実施チェックや、プラン目標を見ながら実施記録を書き込めるようなファイル管理など、可能な方法が検討されることに期待したい。

R5.1自己・外部評価票(グループホームリラ)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・日々に介護記録に生活状況を記入してもらっている。直接現場に足を運び、実践内容など確認している。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・本人の状態、ご家族の要望に応じながら、福祉用具の購入、訪問マッサージ、訪問理美容、ボランティアの受け入れなど、施設以外のサービス利用を提供している。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・地域の神社にお祭りの手伝いに行った時の様子を利用者に伝えている。感染が落ち着いている時期に地域周辺のお店や公共施設等に利用者様と一緒に出向き、気分転換を図っている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・入居者の状態、ご家族のご希望に応じて、かかりつけ医、緊急時の受診を調整している。また特変時には、かかりつけ医に相談し、必要に応じて提携救急病院を受診する対応をしている	希望がある場合は従前のかかりつけ医を継続してもらうが、特になければ事業所の提携医に切り替えて2週ごとに訪問診療にて対応する。外部の診察の際も事業所から通院介助も行える。併設の小規模多機能の管理者が看護師でもあり、健康管理の相談もできる。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・かかりつけ医と綿密な連携を図り、健康状態の維持を図っている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・受診前の連絡相談を実施している。 ・入院時の介護サマリーを提供している。 ・担当者が必要に応じて、情報交換を行い、共有できるように、区内の総合病院のほとんどと関係づくりができています。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・体調、状態を観察し、主治医と相談のもと、家族への報告、今後の対応について相談したのち、朝礼やミーティングにて共有を図っている。	ご希望があれば看取りの方も最期まで支援する方針である。提携医も看取り支援を行っており、24時間オンコール体制にて対応してもらえる。家族にも簡易ベッドを準備して施設内で一緒に過ごすこともできる。ターミナルケアについての研修などにも参加している。	

R5.1自己・外部評価票(グループホームリラ)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・マニュアルを作成し、周知している。必要に応じて、受診対応、救急対応できている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・年2回防災マニュアルに基づいた防災訓練、避難訓練を行っている。BCP作成の為、各講習を受講している。	併設の小規模多機能と合同で年2回訓練を実施し、うち1回を夜間想定で、消防署に立ち会ってもらっている。上層階にも両側に避難路が確保されている。口頭にて近隣の花屋や住民に見守りの依頼をしている。備蓄物は水のみ確保しており、食料品は日常利用のもの在庫として備えている。	運営推進会議と避難訓練を同日に開催して、地域の方との協力関係を築いたり、家族に取り組みをしてもらったのも良いのではないだろうか。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員一人ひとりの人格の尊重を常に心がけるようにし、よそよしくならない程度に、節度ある対応をしている。	利用者に合わせた声掛けや働きかけで、家庭的な雰囲気を持ちつつも、気を付けるべき対応があればその都度注意もする。数年前は接遇についても研修もあったが、昨年はなかった。トイレや入浴時の羞恥心への配慮も行う。写真等の利用も含めて書面での同意も頂いている。	接遇やマナーについての研修の実施に期待したい。
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・業務の流れよりも、できる範囲で本人の要望、希望を聞きながらケアを実践している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・就寝時間、起床時間、食事など、利用者個別にそった、生活リズムを尊重している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・毎月の訪問理美容の実施。 ・本人様の希望に沿いながら、ヘアカラーやカットの実施。 ・ネイルアートやマニキュア等をレクにて実施している。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・配膳、下膳、料理の盛り付けを利用者様と職員と一緒にやっている。	施設全体の厨房がある。出来立ての暖かいものを提供したいという施設長の思いもあり調理経験のある介護職員と一部外部委託にて毎日三食内部で調理している。下ごしらえなどを利用者到手伝ってもらうこともある。飽きのこないメニューにしつつ、調理スキルもあがるように、月単位でメニューをローテーションして提供する。職員が食べても美味しいものを、とこだわりがあり職員も同じものを食べられる。個別対応や外食対応もある。	

R5.1自己・外部評価票(グループホームリラ)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・利用者本人の状態に応じた食事形態を考慮し、食事量や水分量の把握を行っている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・毎食後の口腔ケアの実施や、見守り、状態に応じた食事介助を行っている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・可能な限り日中はおむつをしない様に支援している。 ・リハビリパンツやおむつ使用の方については定期的に声かけ、誘導を行い、トイレでの排泄を促している。 ・自尊心を傷つけないよう、尿取りパット等の使用を促している。	利用者ごとの個別記録の中でバイタルなどと合わせて排泄時間の記録を残している。日中は極力トイレ排泄をするようにしている。排便のみをチェックできるシートが別紙であり、便秘が続いた際などは看護職員に相談して処置に繋げている。	排泄状況やパットのサイズなど、適切な排泄関連の見直しや気づきもれなく確実にできるようなミーティングや申し送りのありかたについて検討されたい。
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・食事や水分量の把握、主治医との相談による排便コントロールの実施。また、歩行運動、体操等の運動も行っている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の手合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	・できる範囲にて本人様のご希望を聞きながら、できるだけ希望に添えるよう実施している。希望があれば、日中だけでなく夜間も入浴できる体制を作っている。	各ユニットの浴室は概ね共通した造りのユニットバスで、併設施設に機械浴もあり必要時には利用している。一人週2回午前～午後で、気分に合わせて入浴してもらおう。日中拒否がある方に対して就寝前にお勧めして夜間に入浴してもらおうこともできる。お湯も毎回入れ替えて希望で入浴剤を利用することもできる。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・個々の生活リズムに合わせて、安眠できるよう職員全員で気を遣っている。また、適宜、空調調整を行っている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・処方箋の内容、留意点について、その都度説明、理解し、対応を徹底している。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・各自の希望等を考慮し、生活歴や特性に応じた家事分担を実施している。 ・買い物や外出レク等やおやつ作り等、希望に応じて参加していただけるよう努力している。		

R5.1自己・外部評価票(グループホームリラ)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	門司港や市内の植物園に行った。遠出が難しいときは、施設周辺の外気浴やドライブ等を行った	コロナ前よりは減ったが、その中でも外出行事を企画している。ユニット単位でドライブしたり、少人数でたい焼きを買いに行ったり、公園、動物園に行ったりと様々な場所を訪れている。なるべく偏りのないよう全員に声をかけ、時には個別対応もしながら外出機会を確保している。近隣の散歩でコンビニ、公園に行くこともある。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・ご自身だけでの金銭管理が難しい方がほとんどである。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・希望がある利用者様には、携帯電話をもってもらい、家族に電話できるようにしている。・手紙、葉書等をもらった時は、返事を書くように働きかけ、関係が継続できるよう、支援している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・日々のこまめな清掃を心がけ、清潔な環境を保てるように努めている。・気温や天候に合わせて、換気、室温調整、採光を行い、快適に過ごせるよう努めている。・音楽を流すことにより、リラックスできるように心がけている。	1、2Fに各ユニットが配置され、各フロアでEVホールを中心に左右で小規模多機能と隣接している。ホールでそれぞれ音楽を流したり、テレビをつけたりと音や動きのある空間にしている。キッチンを中心にホールと居室が配置されており、各所の窓からの採光もよい。こじんまりとしたテーブルが複数備えられることで利用者もそれぞれの定位置でゆったりと寛がれていた。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・気の合う利用者様同士が思い思いに過ごせるよう、配席をしている。・居室にて過ごしたいときは過ごしてもらっている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・在宅時から使っている馴染みの家具や食器、持ち物をお持ちいただき、居心地がよく、安心できる環境作りに努めている。	状態に合わせて、電動の介護ベッド、木造ベッドを選択して利用できる。持ち込みも自由でテレビや冷蔵庫、仏壇なども使い慣れたものを配置されている。冷蔵庫にお酒をいれる方もいるがスタッフにて管理されており、安全に配慮しつつ暮らしやすい居室になるよう配慮している。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・本人様の状態や現時点でのADLに合わせ、居室や共用空間を考慮している。また、手すりや福祉用具を活用し、できる限りご自身の力を使って生活していただけるよう工夫している。・朝礼ノートやアセスメント等によりできることをしっかりと把握し、できる範囲で家事活動などを行っていただけるようにしている。		